



# 星座と如来と菩薩 のお告げ

---

エジプトの神々

---

なんでん屋

---

## 太陽神ラーとは鳥の話声の事

---

太陽神ラーとは古代エジプトでは「神の鳥」になっているようです。日本でも鳥たちの話す声が聞こえる人がいる。話声は聞こえなくても、何を言っているのかわかる状況もあるでしょう。そんな解釈を鳥のお告げ（太陽神ラーのお告げ）と言っているのです。

大型の鳥と小型の鳥の縄張り争いとか、鳥の世界でも抗争があります。それとは別に人間が鳥にお伺いを立てたり、天候を聞いてみたりと色々な場面で鳥に聞いてみるシュチエーションがあるため、それを古代エジプトでは太陽神ラーのお告げと思ったのでしょうか。天候に関しては、人間より遠い距離をテレパシーで話せる鳥族を崇めたのだともいえます。

しかし、エジプトの王はそれぞれ超能力が違ったために、太陽神（鳥）やアヴィス神（犬または猫）をそれぞれ信仰したため、世代により神が違ってきて神殿をその都度作らなければならなかったのでしょうか。

ピラミッドの中の王の遺体やピラミッドの底面にある願い文は、王が星々の星座のお告げを聞くためにピラミッドが作られたのだと思っています。現代でも紙の上にピラミッドの模型を置いて、星座のお告げや菩薩や如来のお告げを聞くためにピラミッドを活用している人もいます。

水晶のダウジングツールであるペンデュラムも同じ効果があります。ただし、突端の下には机や紙があるために間違った使い方をしていると思われる。天からインスピレーションを授かるので、ピラミッドのように先端が上を向いている必要があります。自然現象の道理ですよ。天には、星座があるのですから地には地球がありますので、願いの答えは自ずと違ってきます。母なる星にダウジングで聞くには、水脈とか鉱石などでしょう。天には、自分の守護星が24時間いつかは自分の頭の上にくるでしょうから。

## お告げと以心伝心（テレパシー）

---

お告げは「自問自答」で以心伝心は「テレパシー」です。

お告げを聞くとはいえ声聞こえると勘違いする人がいるようです。

声聞こえるのは、生きていて一度は話したことのある人間ですから、  
愛し合う男女かライバルの声なのですよ。

お告げとは、聞きたい内容を自分に問いかけ、その答えを一呼吸おいて自問自答  
する。

そういう行為なのです。

ただし、夢物語や将来の希望を答えてはいけません。

それは、以前から持っている自分の理想の答えなので、いつも変わりません。

答えは現実の中にある自分で答える内容が守護星や菩薩の声、お告げなのです。

ですから声聞こえる事は決してありません。

声聞こえたらそれは他人の声で、「生き霊」とも言います。

実際生きていますからどこかで今日見かけた顔の中の一人です。

近くで話している二人の会話を直で聞いたか、隣でブツブツ呟いている変人ですよ。

上司にガミガミ言われ、眠れないで攻めている上司が相手なら、相手の上司も同時刻に怒っている  
と思われま。

ですから、生き霊なのです。

これを「以心伝心」と申します。

「ココロに頼ってココロを伝える」という日本語の意味です。

いわゆる気持ちが伝わるということですね。

## 「占い師・霊能者」と「霊媒師」の違い

---

この分野が「占い師」や「霊能者」の部類です。

即興で相手の心を読み取るので、「よく当たる」わけです。

逆に他人のことを説明しても「全く当たりません」。

理性的で最初から疑っていれば、自分を占い師に心を読ませないので、

「全く当たらない」わけです。

また「霊媒者」は、心や体を受け身状態にすると、先祖が話しかけてきます。

そのとき「即興」で発生音を出すと先祖が何を言いたいかは、自分の口からデタラメや知りもしないことを話します。慣れです！

知りもしないことでも、かつて自分が勉強していればその単語が出てきます。

江戸時代の言葉やもっと古い時代の言葉を話してきたら、それは「きにわ」と言って、「イタコ」状態の人です。

「審神者（サニワ）」にはそのとき話しかけてはいけません。

その時、「審神者」の呼吸法が普段と違うので、突然苦痛の出る咳が出てしまい、血を吐いてしまうかもしれません。

いわゆる、話しかけると「喘息」が出るぜんそく持ちです。

だいたい、小学生時代に卒業するようですが、卒業できないと『生き霊』から逃げなくてははいけません。

いわゆる、「疎開」生活です。

## 「霊媒者」の本当の姿

---

とりあえず、先祖と直結になり、そこから他人の先祖にお伺いをたてるわけですが、声は発しません。

ココロ同士の会話なので、脳同士で話しているわけではないのです。

先祖の体や脳はもう焼けているのですから、魂同士の話になるわけです。

そのとき先祖の話声をコピーして依頼者に答えるのです。

だから、先祖が直接お客の依頼者と話しているのではないのですよ。

## 「精神鑑定」の実情

---

ここまでの話は、私の周りの経験をマニュアル化しているだけです。

トランス状態が一時（いつか）であれば、日常生活は問題ありませんが、ハイの状態が長いと精神鑑定を受け統合失調症の回復薬を飲まなくてはなりません。

外部から見ると、「統合失調症」なのか「うつ」なのか「精神異常」なのかわかりません。

今まで生きてきた経験から判断させていただくと、原因は「生き霊」にあるようです。

「生き霊」でも、年老いた理性ある人ではなくて、お金のない「浮浪者」がほとんどだと思います。

最近だと、「オレオレ詐欺」が筆頭に挙げられます。

「精神異常」なので仕事はないですし、親が死ぬとお金も無くなりますし、「居候」で生きていて事件を起こしている人のほとんどがテレビのニュースで出てきます。

ですから結論は、「声が聞こえる」ようになったら「精神科」に行き、薬を死ぬまで飲み続けるしかありません。

精神科の医者はいつも言います。

「絶対飲み続けるように」と・・・・・・・・

## 最後に一言！

---

占い師・霊能者は

「バカ」です。

馬と鹿を見間違えた勘違い者です。

「馬鹿」です。

一つの田畑をあえて家族で分けようとした

「たわけ者」です。

## お告げとは自問自答の答え

---

エジプトでは太陽神ラーやアヴィス神のお告げ。  
宗教界では、神のお告げ、守護霊や守護星のお告げ。  
仏教では、如来や菩薩たちのお告げ。  
自分の世界では、良心のお告げ。  
など、確実な判断を自分でしている！！

ここから、ピラミッドを使った自分で問い、自分で答える、ごく普通のやり方を  
教えましょう。

気による手の位置をピラミッドの上にどこでも持って行ける方は、ここでは  
おいといて、気による手の移動ができない方は、ノートの上にピラミッドを置きましょう。

- 1.まず、白い紙に「次に自分のしたいことは何か？」と書いてみましょう。
- 2.その白い紙の上にピラミッドを置きます。
- 3.そして、自分に問いかけてみましょう、声を出さずに！
- 4.「次に自分のしたいことは何か？」と。
- 5.そして、自分が思いついたものを別の紙に書いてみます。
- 6.これが自問自答による答えです。
- 7.疑うなら、ピラミッドを使わないで別の問いをやってみましょう。
- 8.そして、ピラミッドを置いて同じ質問を問いかけてみましょう。
- 9.答えは変わりましたか？

騒がしくないところなら、誰でも簡単にできると思います。  
これで、占い師・霊能者いらずですね。